

心の時計

望月苑巳

曇天にふらちな時計台
つらくなつて首に縄をかけたぼく
窓から見えるのは
誰が作ったのかブリキの風見鶏が
カラカラと死にそうな音を出して
目を回している無様な姿でした。

母さん、知っていましたか
この世で一番小さな時計は
まだ生まれていない赤ちゃんの心臓だと、
寺山修司という高名な詩人が言ったということ。

時計台がどろりとかしいで
どきどき分針がよれると
カチリと合うはずの世界もよれてしまうのです
そのせいで平和の時を刻むのも
戦への道を刻むのも
この二つの針の仕業にされてしまったのです
ただ文字盤に刻まれた記憶だけが
赤ちゃんの心臓と共鳴して。

キナ臭い国になってしまったのに
母さん、ぼくにくれた鼓動をありがとう。
この心の時計は
幸せになるために使います
だから首の縄は外すことにします
母さんの時計を大事にするために。